

常鹿島郡
金鍛治屋下
二重作

江戸破子温故名跡誌卷之六

沾凉纂緝

葛飾郡西葛西領

三

深川

洲崎

六間塚

海ノ上名所

同

廿

本所

牛嶋

猿江

大嶋

同

廿

中ノ郷

亀戸

隅田川

木下川

追加

廿

下総国

葛飾郡

真間

国府臺

袖ノ浦

中山

寺院

切徳院 多門院 吾徳院 大徳院 海徳院 志徳院

△昇仙橋 正徳の頃園女と云ふ御所の宮庭二十六甲の

まじりてをうゆりやうゆり抄とてすのこまなり

海へゆき詣の形と 橋々世 常盤潭北

△一鳥井 中ら方三四丁西のあり此石に永代寺乃函丈といふ井

より石を削り茶店あり 鱧 蛸 蛤 尚ふの名物なり

○三十三間堂 八幡ノ東 堺屋久重の持

南に千手観音 京大佛三十三間堂をうりて京より八堂間

あり 京間田舎間のさうりし堂のくまの芝世通一矢木大

撰京の形なりけりけり後年けりありえ縁年中じ世なり

△堂乃形ひらけり起立の時弁起の汝門隈をく合持して

隈乃形木物の枝葉をくあつてつらひひ昔法住のあ

沙門病死とてさうの屋止るなりけりけりて巧匠

成勢とてその切りよりく塙屋の堂地とて今にけりて
堂守の法師の塙屋よりけりてはる

○洲崎弁才天 八幡ノ東 別當海潮山増福院吉祥寺 後徳末

開基知是院隆光大僧正 元禄末己丑年 起立

降ま福正字、栄春河辺氏なり慶安己丑二月八日生れ元禄元年に

知事なり二年を經て神田松よりけり後持院とす、以

て徳内海なるより出づり、八幡の遠山浪をくけり、あ

羽田の森、松江城にぐあつて、あつて、あつて、あつて、あ

つて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あつて、あ

○満徳稲荷社 別當知光院 小川左所

○佐賀稲荷社 別當清光院 小川佐所

○永代橋 八幡の色をきく

○越中橋 永代橋の海に 掃原越中ちんちんとの橋

○本場 洲崎弁才天のむら 小川の角、枝葉の同本場なり

○六万坪 本物のひり

○金巻橋 本物を入舟丁へ入る

○平野橋 入舟丁へ入る

○御足橋 幸三右衛門の金巻

○赤世橋 府所を幸三右衛門

○吉巻橋 永代を幸三右衛門

○坂田橋 橋丁

○永居橋 永代を幸三右衛門

○龜久橋 富田丁

○青沼橋 吉巻丁へ入る

○千鳥橋 松巻丁へ入る

○源橋 松巻丁へ入る

○万年橋 長十間

○新橋 長十間

○新川橋 長十間

○福永橋 橋丁

○吉巻橋 永代

○多志橋 幸三右衛門

○お生橋 一之所へ入る

○永居橋 永代へ入る

○元本場 佐賀のきり

○佐倉河原 大川へ入る

○橋原所 南へ入る

○大橋 川へ入る

○阿宅丸の所 新大橋の所

○舟玉祠 舟玉の所

○高橋 長十間

○六万坪 大川の中

○神明宮 六間堀

○伊与橋 長十間

○猿子橋 長十間

○六間堀 同上

○猿子橋 同上

○伊与橋 同上

○六間堀 同上

○猿子橋 同上

○伊与橋 同上

○六間堀 同上

○猿子橋 同上

○伊与橋 同上

○六間堀 同上

○猿子橋 同上

海の上の船 漁獲の場

○中川 一里半 川口九分半 船場 尚不統の名物
 ○丸葎 中川口 ○東濤 丸葎の東に春秋の船場 秋の未だ汐の
 みらる幸ありあり ○横濤 丸葎の物 ○中瀬 ○夏葎
 ○小濤 中瀬の先し 汐ありより大葎あり ○冬葎
 ○取取り もみあえ ○葎本 取取の西の方
 ○立例 丸葎の西の方 丸葎の西の方
 ○二牧例 丸葎の西の方 千一里より二七間 辰巳の方を船場
 ○預倉 二牧例の西し 中川口より十二七間 辰巳の方を船場
 ○仙又 檣杭 丸葎の西の方 丸葎の西の方 丸葎の西の方
 ○藤 丸葎の西の方 丸葎の西の方 丸葎の西の方 丸葎の西の方
 の船し 日和のえんありあり 丸葎の西の方 丸葎の西の方 丸葎の西の方

○貝が水増 種あり 千間 丸葎 ○蛸壳例 ○大洲
 ○井戸下 洋先寺 利根川 丸葎
 ○佃沖 益瀬 丸葎の東より東を東河例 西を西河例
 ○菟瀬 ○東河例 ○西河例 三糸も 丸葎の物
 ○三合 東河例の己午の方六七丁 丸葎の物 丸葎の物 丸葎の物
 ○出例 ○蛤蒔 ○間の例 出例の物 ○碓取
 ○下例 ○櫻木 ○真濟
 ○弁天沖 ○上総濤 ○本港
 ○鉄炮例 佃表し 御漢沙殿まのる 八十八夜後 丸葎の物
 ○三尺濤 ○敷の丸通 ○赤雲 ○源三糸濤
 ○天王例 丸葎の西の方 ○生貝 ○鮫江沖
 ○白洲 丸葎の西の方 ○冬葎 ○冬葎
 両河東流 丸葎の西の方 丸葎の西の方 丸葎の西の方 丸葎の西の方

江戸 協志

○双岐山親源院心行寺 増上未

用山園谷上人 中興三天上人富是天和尚 現住遺基上人

○菰色弥陀 寺中 乾定院 正源院 寺中

○深川山直徳院正源寺 日未

用山南谷上人 寛文十年九月廿日葬 現住轉基上人

○大音山善流院正定寺 正源寺未

觀音堂 關原檀金千年源光朝の持仏 江戸三千宗 二十番

○日蓮寺 永流院法祥寺 園長蓮社阿上人 知曇 御邊新田

為寺性古ハ八重例の御あり今ハ正月ニケ月 祇園をなすは

これハ一ノ御城ハ一ノ御あり今ハ初春三日迄おせし例ハ

塔院 常照院 宗心院 白毫院 良信院 為徳院

○禪宗佛圖

○永壽山海福寺 黃檗流 玄侶未 寺中

用山隱元老和尚 万治元年戌土月 起立 中興獨本源和尚

○三聖山惠然寺 二谷月桂寺未 日未

用山別傳今禪師宗文和尚 上列里滝未 海邊新田

○福聚山泰耀寺 中興千山和尚 現住是麟和尚

○大安興國山万祥寺 海福寺未 日未

用山渡雲和尚 本寺火闇地蔵 毎月廿四日懺法

○慧日山真光寺 五海未 日未

用山潮音和尚 中興大洞和尚 現住親拙和尚

○蒼龍山宜雲寺 京州寺未 日未

用山阜禪和尚 元禄七戌年 起立

○海照山増林寺

約のこ林寺未

ら所

白之觀音堂

江戸三十三下 三十一番

○長光之陽岳寺

京妙心寺未

ら下

○瑞穂山臨川寺

町未

西之大下

○瑞穂山頂南禪師

○蟠竜山長慶寺

越後耕寺未

森下所

○日照之中央寺大日堂

長慶寺未

小舟苑

○東光之要津寺

妙心寺未

六馬坊

用山

○祥雲山善法寺

四谷竜昌寺未

西之新田

○万徳山廣濟寺

京法未

横江

用山潮音禪師

牧野徳後寺及用基し

歌住千峰和尚

○法花宗

○法苑山淨心寺

身延未

寺法百石

小川

中興用基日念上人

地中 一宗院

法華院

香隆坊

心淨坊

唱法坊

秀雨坊

○一向宗

○大護山因速寺

東未

寺

○威益之西念寺

栗

馬下

○中郷山源光寺

京未

中川

○真言宗

○圓六堂

賢臺山法兼院賢法寺

寛永廿一年入葬

寺

用山之春大和尚

○瑠璃光之万徳院

和代寺未

小川

○稻荷大明神

高照山勝福寺

天台宗

上野未

口舟堂未

了吟所之可の法寺之古ハ法系門の側ニ有リ今の地ニ移シ
後之可の被法門ノ大平記ニ據ル也又此ノ地ニ有ル

為院に寺号あり。世俗無縁寺と号する事ハ其創のきり
今の中堂の残ハ一堆の義塚に。後年塚のく。金州の強陀
を毎堂に堂の今の方丈の地有向の建より天和二年十二月廿日
火災より。後堂を塚のく。建。金佛を本堂に。元禄十六年十一月廿九日。大火に。金州の強陀鋪より
あ。お。四世の觀音と大祐經和尙が。弘福佛を。堂前
に五佛形を。中堂に安坐と今の中堂なり。

△鎮守并才天 藁芭并天と云 弘法大師の位立像丈二臂の像

用と云人勸行念佛の間千躰堂に。此堂の。を。は。に
入。捨。と。大師の彫刻なる事を相。

河衣衣を彫刻。寺の西南に。後法神。に
今に開帳あり。稱し稱せ。千躰堂今に。

△山門 橋上に觀音と安坐と官野清光也建。山門に元禄十六
乃火災に。觀音の地蔵堂あり。今に。六番

△雨室童子 上宮太子 二階にも。五世忍容上人の造立し太子也。

△菰堂 菰乃臣牛持の。奉祀 孫記あり

△馬頭觀音堂 明曆年中 公儀の御馬を葬ル塚のく
獅子無畏の像を造立し。瘡を新。あり

△三佛堂 万治年中 町御奉行より。牢死刑死の七魂の
一基造立あり。都市中を毎日佛。誦を。僧十六口

△別院 小塚あり。乃七者を葬 岩田涼之
今日乃改院を。と。あ。れ

△大方の廣佛院華嚴經寺 傳通未 あり。十水

用山向蓮社一芸上人信用和尙 現住明法上人普同和尙

△宗師也 毎日四衆をあつめて華嚴を講せり
あ。心信教の。君感得の。る。傳。

○重光寺 同山。是智智。○光徳寺 小中本

○當日山西光寺 照明院 知恩未 川舟房前
用山源運社信奉堂故英村大なる 祝任八世行卷上人
慶長十二丙午小林久西起之 觀音堂 江戸二十二年 廿七番

○禪宗佛閣

○天恩山羅漢寺 黃檗 五ッ目

洞山鉄眼和尚 中興象光和尚 祝任榮朝和尚

本号釈迦文殊普賢五百羅漢乃傳共汝門松雲造之

元禄八乙亥八月朔日大圓廣慧国師用眼其月心号存号

乃願中興多中興象光和尚江都市中中の勸化をこころ

本堂羅漢堂方丈木の法堂あり 建立あり享保年中

堂供養ありあり 毎月觀音懺法 朔日 大般若修行 十五日

本号勝立大佛(石座獅子自象九九年中岩組に登る落ぶ)

羅漢八座像二尺寸(階壇の上段に立)堂本堂あり

○真言宗佛名

一乃徳山弥勒寺 新義觸頭 寺以百石 二ッ目

本号弥勒寺上寺所にあり 天和二年此世にあり

法樹院 法上院 正覚院 龜光院

○高野山大徳院 高野法佛殿別當 一ッ目

本号弥勒寺如來 現任義国法印

藤原子南都大佛殿舊進所あり 小名木尺

○勝智院 大徳 〇宝塔寺

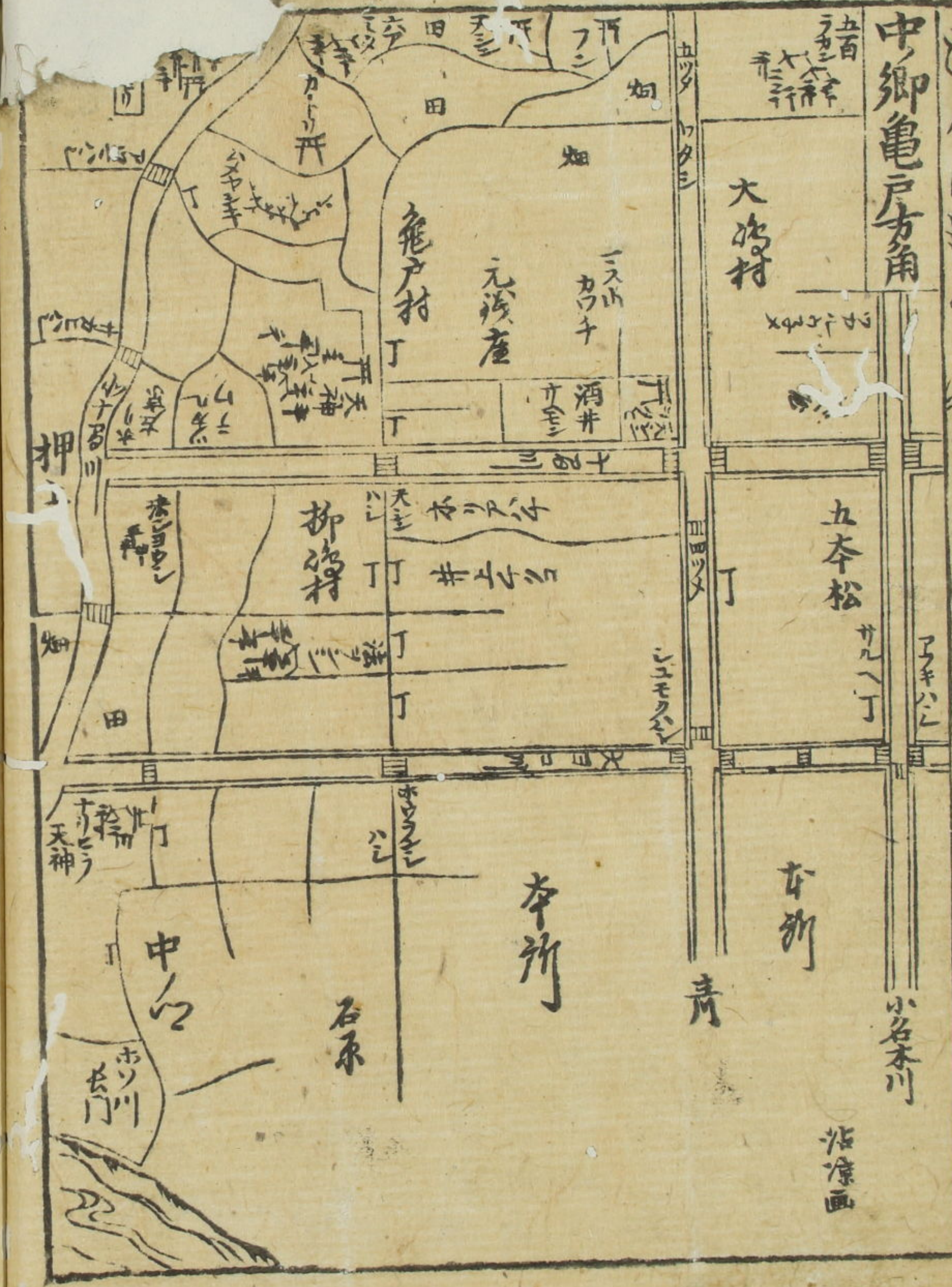
○足王寺 菅田末 猿江 〇

○法花宗佛名

○正覚山妙源寺 小名あり

洞山中老僧天目上人 建武年中系刻

○照法山本久寺 下詔寺末 日而 祝任十世自成院日任



○業平天神社 業平山東泉寺南藏院 天台 中つ

△社在原業平朝臣を祭る云 同基林能法印

△聖観音並に業平の影像と云 業平の自作と云

△月光稲荷社 当社の地主なり

△業平竹 芥川男並し △業平塚 つのうら舟の形と云

九世別當良海法印靈友の事ありて南藏院と云

社説曰業平朝臣弁杵又人としてひさしのゆかりの里

のふもとにありて世のふゆをうらむるに三尺の懸刻

しを里人中心を建てて傳の傳をたもめ業平天神と云

△業平東園(おむら)江次第十四云 業平の園は

ひさし二条の后を祀りてもとをうらむるに伊勢物語(ひさし)

をうらむるにひさしのふゆをうらむるに伊勢物語(ひさし)

をうらむるにひさしのふゆをうらむるに伊勢物語(ひさし)

くさくさもささるる下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

下略 又云ささるる入りの部

西のやまへとのめをその南の山に於て一入りの
すまふと云ふ事なるに成らざらん

夕立や田も足ぬりの神をくそ

其角

熱くはつと云ふ事なるに成らざらん
雨車軸を造るに世に於て

小坂代地

○三圍山真珠院延命寺

天台

願不動尊

中々尾原 中氏庚六作し

此寺のいふ名の如く尾原の佛像を仰ぐ其形相併ふの如く
正保四年九月高野の蓮華定院の行藏盛法印
西望にありて俱利伽羅不動の像を仰ぐかの用は行勝上人
の撰録西原王の化現を造る事とありて諸列に於て佛土画
寫を命じてて其像をうつしに於て叶を中氏庚六の
佛をえりててめてそとにげりて感心のある件の
旨意を書きて表すの如くは修る事ありて殊とせりはもの
し、いふの推の本中一の世に修るとし東都尾原の
寺為氏と云ふ事なるに成らざらん

○牛頭神社

牛島

別當牛室山明玉院寂勝寺並帶

貞觀二年庚辰慈覺大師の勸請し奉神進雄神と云

諸社根元記

中間の大政所牛頭天王素戔嗚尊垂跡東向八王子

五男三女西向稱田姫本御弁とありて牛頭天王と云ふ事なるに成らざらん

牛頭神と云ふ牛頭天王と姫本御弁夫婦の神なりと云ふ事なるに成らざらん

清和天皇の皇子を奪ふ事あり八王子と云ふ事なるに成らざらん

名所記 建長の二の浅茅川より牛鬼出づ人民を食ふ事なるに成らざらん

草寺如牛者忽然出現奔走于寺于時寺僧五十口討

食堂之間集會也見之件之怖異廿四人立所受病痾起

居進退不感力風云七人即座死貞觀より享保まで凡

八百六十余年建長四年八十余年牛鬼出づ一四百年も好む事なるに成らざらん

寂勝寺に石碑あり追年土中より掘出たり

表に叙かつ傍

奉造立叙迦像一軀

青石六寸四寸五分

貞觀十七未天三月日

厚三寸五分

法華千部明王院

系々古風あり此所なるをいふをいふをいふ牛鬼の牙流疑はし

○御旅所 小笠原 祭礼九月十五日隔年 本所の惣領あり

○牛宝山明王院寂勝寺 天台 上野末 北平所

貞觀年中才の草創し 不勤明王 良井僧正作

実永の頃殿より所成あり所殿の如く云ふより王をまつて小初と

○神明宮 定朝之神宮寺 寂勝寺抱 10

法皇の旧名云牛宝山時代之志 津土宗の改門信阿能武列

忍城下所田大中ちん金初丈六の弘院道と一奉細の後の法

形をいふ為寺の本名にせんといふ院の門前よりあつく勸化せ

中平あり其切すゝ寂とすゝ其門人爲作のいふるを

法くも為寺再興をいふ 寂寺事係とて高秋りけて志願せり

○秋葉権現 兩社勸請 別當千葉山満願寺兼帶 法地村

法皇の年代不詳凡正應年中の草創し云四百十余年し

○神水 松の控より涌出に云ふ病に効あり

○千葉山満願寺 真言 三宝院末 中ノマ

○庵碕 法地村ありと編者のをいふ 弁基法師

新勸興 法地村ありと編者のをいふ 川島よりいふをいふ

○白髻大明神 別當寂藏院 寺持の内

法皇の年代不詳ありとも法皇よりの中よりいふ

○天台宗 佛閣

○喜桂山成就寺 高末 中々岡山決印舜慶正和三甲子起立

○長景山清光寺 高末 〇東栄寺 高末

岡山後能法印 現任純栄 〇齋玉山松林寺 高末

〇齋光山泉音寺 高末 〇高竜山普賢寺 高末

岡山宗賢大和尚中興慶明大和尚文明年中の起立し

○長勝寺

中ノノ ○永泉寺

押上

○弘誓山法正寺

押上 ○常照寺

押上

○天羅山真盛寺

天台律宗

押上

○自然木出山寂迦佛 隆穿山出山寺

押上

○七観音 宝松山金性寺 用山法印朝寺和尙

押上

○宝積山遍照院長命寺 上野末 牛山末のころ

慶長元 所鷹野の河所 龍色 沙不 収りて 此菴室子 介あり

河原をぬ めをさす ありて 此に 早蓮 所核 燈堂 ありて

河原の河寺の 名を 同りて ありて 此の 菴に 寺ありて ありて

釣命 ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

合めり ありて ありて ありて ありて ありて ありて

○禪宗 佛 閣

○頭山福寺 黄檗流 用山鉄牛和尙 牛山前ノ隣

○鎮護山碩運寺

禪宗 曹洞

石系町

用山附山栄徳大和尚

慶長元年 創

現住 聖徳峰 泰輝和尙

△新美稻荷大明神

本寺 聖観音

此菴 ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

境内 東西 二三百 間あり 八間あり 凡三百九十六坪余

館林 茂林寺 未 ありて ありて ありて ありて ありて ありて

同 六年 十一月 正木内 膳九 取六 ありて ありて ありて ありて

全 通 菴 ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

○向東山天祥寺

小松代地

○白牛山定林院

妙栄

小松代地

○真源山松茂寺

中ノノ

○昂現寺

同末

ありて

○東向山秀命寺

○延命山栄青院

遍敷ありて

○浄土宗 佛 閣

○常在山靈山寺二尊教院

十八檀林

寺 ありて ありて ありて ありて ありて ありて

上水小

用山念遠社事 天六上人 大起和尙

寺 ありて ありて ありて ありて ありて ありて

谷中へつる元縁羊中は地よりつる

○妙栄山本法寺

寺中

法之院

中妙院

玄授坊

十宗坊

真如坊

住持

○子授鬼子母神

安樂山本佛寺

出ひ

寺宝壽宝大明神

弘法大師

入磨の節彫刻

上水ホリ

○久遠山常泉寺

大石寺末

寺住三十三

寺中

中興開基日有上人

寺中

中住坊

中住坊

○正栄山妙縁寺

日末

寺中

中住坊

開山日衆上人

寛永九酉

起立し日衆

中寺大石寺十九世住持

○天松山最教寺

寛永羊中

起立し

押上

開山仙徳院日宗上人

寛永羊中

起立し

押上

○妙見山法性寺

真開山末

妙見堂下

妙見堂下

○長嶺山春慶寺

押上

○是應山寶相寺

中寺末

中寺末

○元英山清雄寺

中寺

○春陽山永隆寺

出ひ

○宝聚山大法寺

法恩寺末

寺中

玄照坊

正光坊

開山大権院日巧上人

中興日陽大

寺中

玄照坊

正光坊

△廣布石

△あり

△のあり

△のあり

△のあり

世俗を千葉石

世俗を千葉石

世俗を千葉石

世俗を千葉石

世俗を千葉石

またその臺石を

またその臺石を

またその臺石を

またその臺石を

またその臺石を

○隅田川

牛田

○隅田川

元末

隅田川

隅田川

隅田川

隅田川

隅田川

隅田川

の部人を

の部人を

の部人を

の部人を

の部人を

の部人を

の部人を

の部人を

てす

てす

てす

てす

てす

てす

てす

てす

隅田川

隅田川

隅田川

隅田川

隅田川

隅田川

隅田川

隅田川

○漆ヶ淵

本母寺の上

本母寺の上

本母寺の上

本母寺の上

本母寺の上

本母寺の上

本母寺の上

なる

なる

なる

なる

なる

なる

なる

なる

○七橋の跡 びり 此處の大川に七橋あり里民の云はれ古
去後下流の池に大石七人あり而して橋と云ふて僅還に
とくなくの水底よりの橋杭の跡ありにありと云

○若宮八幡宮

葛西より文村

別當東正院

文治五年源頼朝と奥列泰衡 還治の時け神前を居り好
帝に祈りありゆ津乃後造宮ありと云

東鑑六云

文治五年七月十九日已尅二品為征伐奥州泰衡發

向給露

九鎗倉出御勢一千騎也 此時の事なり

○鐘摺の巻

あまの山本母寺より六七町あり

八幡太郎義家と奥列 征伐の時此所の巻を束末院をすんで
る上より眺るのさうなりは巻末を束末院と云ふなり

○鑿川

川より十二町あり

○犀の淵

尾久の巻より犀の淵と云

○龜戸

○龜戸天満宮

別當菅少僧都信政

筑紫太宰府勸諸 寛永三丙寅鎮座 菅系末大鳥居信祐建立
安樂寺より地圖へ遷す 為社をよりあり

延永元年正月二十日左遷太宰推帥延喜三年二月二十日
薨于配所葬安樂寺年五十九 仁曆四年五月遣勅使於

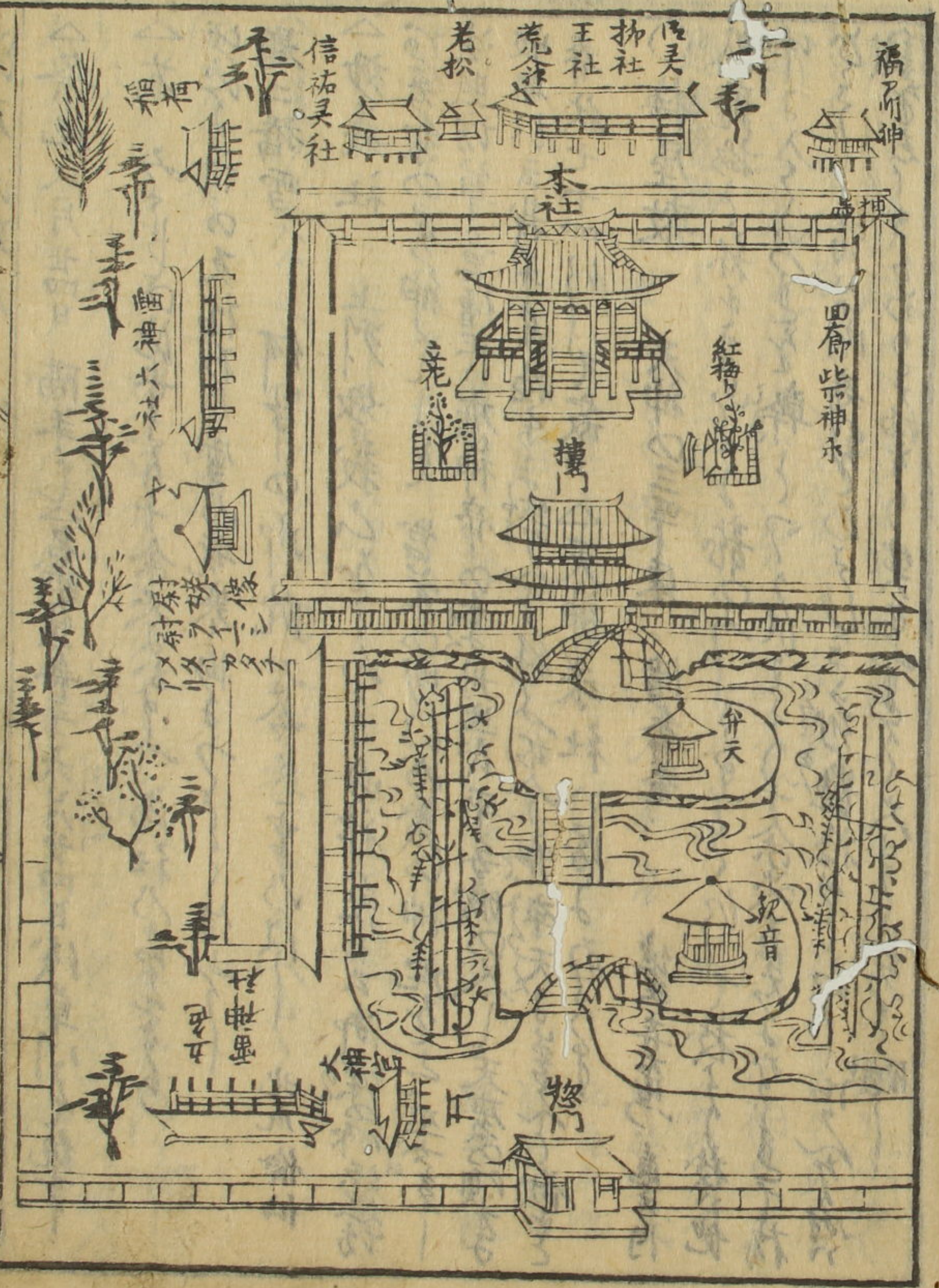
宰府安樂寺詔贈太政大臣正一位神社考 天神御所高辻

北西洞院東洞院南又曰紅梅殿五条坊門北町北野御子家
或云天神御所△△社△△寛永年中大鳥居信祐 上聞に事其後

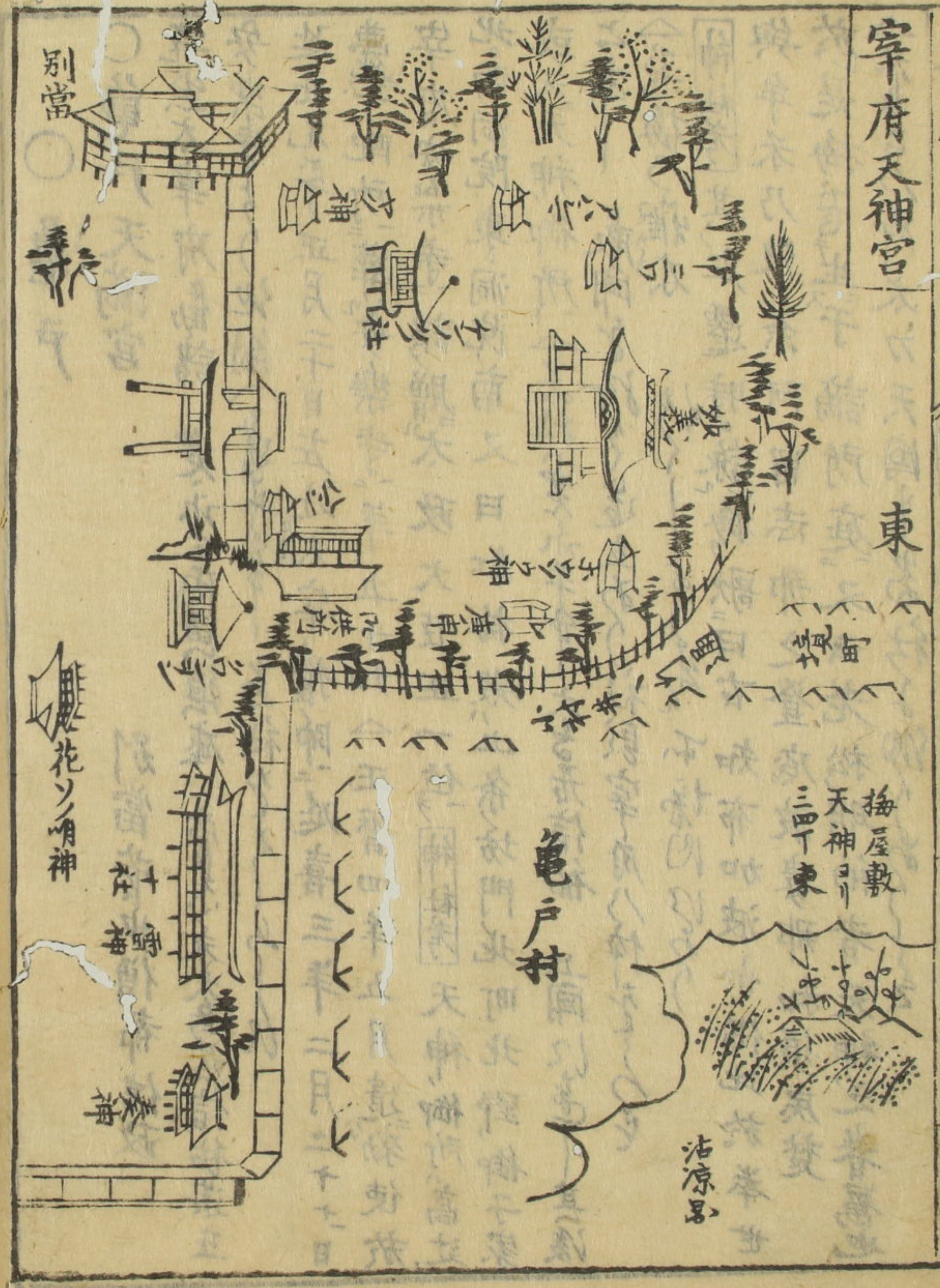
△△梅乃雅本 處圃を造り造立あり社殿宰府乃俸をり

△△梅乃雅本 其左遷時詠梅歌曰古知布加波介保比於奉世
與年采乃波奈阿留志那之登底波婁那和須庚楚

於是梅乃生于謫所庭又云老松明神者天神之眷屬也
△△菅云乃海太刀天国も此社よりありと云



宰府天神宮



△祭礼八月廿四日 隔年し△名越後毎年六月廿四日浅草川に執事

△菖 みるしの池上より十余丈なる小高社なるをり

此の二つの及梅あり雪の晩寒梅子うつくしく信あり

題二橋雪 何半の御枕は冷く雪ははら 北九倫仙

△妙義社 上列妙義心をくつりて此社に菅云御法照坊

阿彌尊の弓神としし 官前の所に妙義の神陀をよ 巫女多し

法照坊尊意僧正の應神帝の季丹生氏平吾城の人し天慶の頃子

恒照に云我年未だ梅ありと誓ふと終ふと西今魁率天子多て飲ま

春秋七十四にて寂す △天神末社ハ湯よりわたり

○梅屋敷 天神の三平東 借香菴 聖喜庵の亀之内

此龍梅と称すまゝに龍の形に似たりて枝より枝に地

中より今より梅を幹とつらぬるに十余丈なるもの多て梅

はくし 香は南無阿弥陀仏をあらはしに艶艶梅ありて

園を志す者ありしゆあり実と守りて大まきものあり

近き頃の池ありて 今もさるるにありてあり 花の色香も深

くはくしの池ありて遊觀の人詩歌連誂紙巻のよきあり

煎く一車に積るに於身一の名あり △天満宮の小祠あり

題臥竜梅 とうとうとや此の鱗乃志のらんめ 菊田治涼

世よ空しく梅や栄傑の真なる者 中島立長

舟のさるる老馬もいづれ梅の道 北尾千洗

海うね梅乃長灯治中カ隠り 菊田梅五

善善庵あり梅あり梅の繪系物 坪井千楓

△龜井 井ありても不詳 井乃井 笠井龜

△大横あり天个太平の文字と虫食太平横とと云へり

○亀の井 取不詳

古麻子 龜井と天神の近不農家のいれありて 亀の本を

これしそのれらるる井とありて記す 紫一本よ農家のいれ梅乃

大ありけ梅をくくるとありて時大まきと出ありあり

○東林山華藏院宝蓮寺 真言 寺傳蓮花寺未 龜戸

同山真鑲法印 乾元二癸卯同基 吾妻森別当

本寺虚空藏菩薩 安河孫の川 江戸府三虚空藏の内なり

新僧三佛ハ 小泉川 粮彩寺 白山西坂下正福寺 當寺し

足踏かきなり 按二乾元一二年に改元し二年癸卯ハ嘉元

元年し九十三代後二修院の修をこし 仁治百三十年程 享保十七ニテ

○福聚山普門院 真言 江戸

本寺大日如来 觀音堂

此寺より却温神呪經印絶此 疫病除の守なり

○慈眼水 名水なり 安河才の寺風景殊勝地なり

○明王山東光寺 日宗 為蓮花寺未 江戸

○宝性寺 真言 江戸 不動院 吾妻 江戸

○秀明院 日 〇慈雲山竜眼寺 天台 江戸

○施無畏山善竜寺 天台 金竜山未 江戸

○香林山金藏院 天台 井天弘法大師作 法華寺未 江戸

○龜命山光前寺 日 同山傳榮法中 江戸

○教智山淨心寺 浄土 再與主勢六世合卷上人 江戸

同山心卷上人入道和尚 〇竜光寺 真言 吾妻蓮花寺未 江戸

○龜命山慈光院 曹洞宗 梅場伝承寺未 江戸

同山肅列 敬大禪作 祝住孤敬天舟雙

永正年中 葛西出雲守建之

△寺大日如来 仍基の作 東方の畑の中より出現

△法寺 天照太神 雨宝童子の春日作 智光大師の作

○小村井 木下川

○吾妻森 小村井 龜戸天神より四子翼 龜戸宝蓮寺指

吾妻大権現社 石の宮殿 女小宮あり 吾妻あり 吾妻あり

立元姫の所廟し 鎮座 是行帝七十六年し卯 享保

元二十歳より云々 江戸府才一古跡し 上古のより 吾妻

井出大子かしく云人再志立せしとて

題吾夷蠻 僧ひりり凡のほりや森乃穴 菊岡布仙

△神木 連理の楠大木なり一節に女本男本あり

△稻荷社 本社あり△浮洲売の商社の説し葛西のさき東之

立花姫神靈東海鹽八百會湯魂止給海上守護船

玉つとありとらつと海と此中(中)後社(中)日本紀 景行天皇四十年

十月日本武尊相摸國子進人上総に到らん船より

海中に暴風起り波にたづかへり船危りり時尊乃夢

新羅姫と云あり 穂積氏忍心宿祢の女し尊に言ふ云風記

波をみりしは神を沈んん是海神の心也縁

身命の命を贖へ海に入んし自海中に入らば暴風怒

しと云ふ君の去津と云ふりけり昔妻の神あり

即立花姫の靈社し立花姫の本土に相列し大津梅沢乃

入りよあり上のまゝに楮取の沙俣の海とあり

云又海たのしらけり日社あり下のまゝに夜堂の海とあり

△又當社の稲荷の社と云説あり 菴主云い

下総相馬邊へ一人の良女あり日我は立花姫の具かり

宝篋を海に沈めしをいひこれより人事をし三百年自狐と

妻し海中に入事あり竜神なりか

伊ちうをかへし 答云水中に事あり凡人のちうと云ふ

又云追月夕陽ありかや日ありその時若者津乃渚に舟を

舟をささる内り水中あり 老翁を龍神をいふ

ししその月をいひてかへしにと海上高波あり

多形に投入せしり此の良女ありその宝篋あり

しと云ふ宝篋相する家ありしと云ふり

○權塚 ○漂知塚 けさのありしと云ふ

二子口亦心 廿一

○木下川 薬師堂 寺在云 青庵山淨興寺 赤玉院

用山慈光大師 本寺傳教大師の作 正堂の龜毛川の

北条氏康武藏野紀行 天文十五年仲秋の比びし

中略 昔の在津興寺の長老

そこの寺の

松風入

松う

○夕龍の觀音 昔の飯坂村にあり

五條十八年乃

赤濱

これ

と

と

と

○利根川 武藏下総乃境 坂東才の大河

△松戸即國所 水戸乃中 △栗橋即國所 日光道中

△五科 △実政

○か

○此

○此

○此

○此

○此

○此

○此

○此

○此

○此

○此

○此

○此

○此

○此

○此

寡聞詬免乎傍觀之誹笑
冀待博雅之訂正也已

崔下沾涼



享保十七子歲仲夏吉旦

江府書林

日本橋南一町目

万屋清兵衛梓刊

六卷之内

飯島氏



